

平成27年度 宝塚西高等学校 学校評価

4段階評価(4=よくできた 3=できた 2=あまりできなかった 1=できなかった)

領域	評価の観点	評価項目	担当分掌	実践目標と成果		評価					
						4	3	2	1	平均	
開かれた学校作り		PTA・同窓会との連携	総務	実践目標 PTA・同窓会との意見交換を行ない、学校運営や行事に活かしていく。	成果 PTA広報誌「ゆずりは」の発行、学校行事へのPTAの参加を通じて、互いの連携を強めることができた。特に毎週末の「西高メール」を通じて保護者へも直近の予定を伝えることができた。同窓会とも同様に連携を密にすることができた。	36.7%	53.1%	8.2%	2.0%	3.2	
		学校評議員制度等を活用した学校運営の推進	管理職	実践目標 学校評議員会において、各委員から出された意見を吟味し、学校運営に反映させる。	成果 学校評議員会で出された意見を職員にフィードバックし、学校運営の改善に努めた。	23.4%	57.5%	17.0%	2.1%	3.0	
		地域への貢献活動	総務	実践目標 学校周辺の美化活動で、クリーン事業を年2、3回行なう。	成果 第1学年全員とボランティア生徒とで、2・3学期に学校周辺や武庫川河川敷の美化を行なった。	35.4%	50.0%	12.5%	2.1%	3.2	
		家庭や地域への情報発信	広報	実践目標 学校のホームページや学校説明会などを通じて、学校の特色などの情報を伝えていく。また、PTAと連携をして保護者にも情報を発信する。	成果 教育委員会、塾などが主催する説明会に参加し、学校の特色などを伝えることができた。ホームページでは、宝塚西高校Blogを開設し、学年などの協力を得、逐次情報を発信することができた。PTAは、PTAの広報部と連携をして、宝塚西高校の情報などを伝えることができた。	53.2%	38.3%	6.4%	2.1%	3.4	
学校運営	生徒指導方針の確認と指導体制の推進		生徒指導	実践目標 基本的な生活態度や習慣を身につけさせるため、生徒の実態を正しく把握し、全教職員の一致した指導体制を確立する。	成果 朝の校門指導や放課後の下校指導を通して実態の把握に努めた。	31.9%	51.1%	12.8%	4.3%	3.1	
			生徒指導	実践目標 保護者に本校の教育方針を十分に説明し、相互理解による協力体制をつくと共に、地域及び関係機関との連携を取り、心の通い合う指導を推進する。	成果 入学式後のオリエンテーション、長期休業前の生活についての印刷物等を使って周知に努めた。	23.4%	57.5%	17.0%	2.1%	3.0	
	生徒の自主・自律の精神を育む指導の工夫		生徒指導	実践目標 生徒会活動を活発化すると共に、個としての自立性、集団としての連帯感を高める。	成果 生徒会に自主的に活動させて文化祭等を成功させた。	36.2%	51.1%	10.6%	2.1%	3.2	
			生徒指導	実践目標 部活動の意義・必要性について教師が生徒をリードするとともに、各部部長会議等を通じてリーダーシップの育成を図りつつ活性化を促す。	成果 いろいろな部活が活発化してきた。	29.8%	53.2%	12.8%	4.3%	3.1	
	生徒の内面の理解を図る指導の工夫		生徒指導	実践目標 生徒の内面を理解し、一人一人の個性に対応した指導を行なう取り組みを充実させる。	成果 これからも継続して努力が必要である。	23.4%	59.6%	12.8%	4.3%	3.0	
			保健	実践目標 年間2回のカウンセリングマインド研修を実施し、生徒の内面理解を図り、指導法を共有する。	成果 教育相談の総括及びカウンセリングについての演習を含む研修を実施し、生徒理解・生徒支援について学んだ。	36.2%	55.3%	6.4%	2.1%	3.3	
			3学年	実践目標 面談等を通じて個々が抱える問題を把握し、進路実現に向けて学校生活に積極的に取り組ませる。	成果 日頃からコミュニケーションを図ることで、問題解決に向けての自覚を持たせることができた。	27.7%	63.8%	6.4%	2.1%	3.2	
			2学年	実践目標 学校行事・委員会活動・部活動において、企画力・リーダーシップを発揮し、積極的に参加する。	成果 それぞれの場面で、中心となって活動することができた。	36.2%	55.3%	6.4%	2.1%	3.3	
	進路指導		進路指導体制の充実	進路	実践目標 各種資料の充実を図り、生徒個々の多様な進路ニーズに対応する。	成果 PTAの協力の下、赤本やHR配布冊子を充実させることができた。訪れやすい、使いやすい、進路室を心がけ、昼休み・放課後の自習室としての利用が増えた。	48.9%	44.7%	4.3%	2.1%	3.4
				進路	実践目標 各種進路講座・大学出張講義の目的を明確に生徒に伝え、積極的に活用し、生徒の視野を広げる。	成果 進路行事の業者を変更し、一部の大学出張講義は6月末に変更して運動部の生徒の参加を促した。国公立大学対象の説明会を新たに企画する。	44.7%	48.9%	4.3%	2.1%	3.4
主体的な進路選択能力の育成			進路	実践目標 進路HRや総合の授業も活用し、生き方や職業観について関心を高め、生徒一人一人の適性を伸ばすとともに、やる気のある生徒の能力を引き出す補習の充実	成果 進路行事を通して生徒の関心、やる気をひき起こす事に主眼を置いた。西高伝統の朝補習を充実させるため、先生方へ呼びかけ、3学年間の調整に力を入れた。	31.9%	57.5%	8.5%	2.1%	3.2	
				進路	実践目標 ふれあい看護体験、保育士・栄養士就業体験事業をはじめとする、職業体験を発展・充実させる。	成果 従来のふれあい看護体験に加え、1・2年生向け春の看護体験も参加者を募り、生徒の希望に応えることができた。3年生の保育士・栄養士就業体験を充実させた。	46.8%	46.8%	4.3%	2.1%	3.4
教職員の資質向上		学力向上	実践目標 ひょうご学力向上サポート事業の意義や目標に対する共通認識を図りつつ、授業公開等を行い指導力を向上していく。	成果 今年度は教科内での授業公開、その後の授業研究を行った。	12.8%	55.3%	27.7%	4.3%	2.8		
			教務	実践目標 進路・国際・保健・人権等、様々な課題について校内研修を計画的に実施する。	成果 研修会を実施することができたが、研修会の時間確保に苦労している。	17.0%	70.2%	12.8%	0.0%	3.0	
危機管理体制の整備		実効ある学校マニュアルの策定	総務	実践目標 本校の実情に応じた防災訓練を定期的に行なう。	成果 年2回の防災訓練のうち、1学期末にはホームルーム下で実施し、各部署の人数の点検や活動内容の確認を行った。	31.3%	62.5%	4.2%	2.1%	3.2	
			総務	実践目標 実践的な防災訓練を企画し、防災意識の向上に努める。	成果 年2回の防災訓練のうち、1学期末には本校では初めて地震発生を想定して実施できた。	34.0%	53.2%	10.6%	2.1%	3.2	
		学習環境の整備	保健	実践目標 学校薬剤師と協力して環境衛生検査を定期的に行なう。	成果 学校薬剤師と協力して環境衛生検査を定期的に行なう。正常な学習環境の維持に努める。	32.7%	61.2%	2.0%	4.1%	3.2	
				生徒指導	実践目標 インターネットや携帯電話の正しい使い方を学ぶ。また、薬物乱用に関する啓蒙活動を行う。	成果 情報モラル講演会、薬物乱用講演会を通して啓蒙活動ができた。	33.3%	56.3%	6.3%	4.2%	3.2

平成27年度 宝塚西高等学校 学校評価

4段階評価(4=よくできた 3=できた 2=あまりできなかった 1=できなかった)

領域	評価の観点	評価項目	担当分掌	実践目標と成果		評価				
						4	3	2	1	平均
教育課程・学習指導	自ら学び自ら考える力の育成	体験的・問題解決的な学習の展開	教務	実践目標 基礎的・基本的な知識の基盤に立った、思考力・判断力・表現力などの能力を向上させる	成果 学力向上プロジェクト委員会と連携して、家庭学習時間の確保につとめた。	12.8%	59.6%	25.5%	2.1%	2.8
		生涯学習の視点に立った実践能力の育成	教務	実践目標 新学習指導要領に対応し、適切な教育課程を編成する。	成果 理系の教育課程の検討を行った。	25.5%	57.5%	17.0%	0.0%	3.1
	基礎・基本の定着	生徒の学力の把握	進路	実践目標 西高学習プランを進路通信等を通じて生徒に提示し、学習意欲を喚起する。	成果 今年度も、進路通信で生徒に2ヶ月ごとの学習プランを提示することができた。	29.8%	59.6%	10.6%	0.0%	3.2
		家庭学習の充実	学力向上	実践目標 西高学習プランに基づいて、課題や目標を明確に意識し、自己点検を行いながら家庭学習を充実させる。	成果 毎月、各自が学習の目標設定をし、自己点検を行い家庭学習の充実を図った。	19.2%	61.7%	19.2%	0.0%	3.0
	個に応じた学習指導の徹底	評価方法の創意工夫	教務	実践目標 評価方法について教員会議で検討し、観点別評価など多様な評価資料の活用を研究する。	成果 年間指導計画に、観点別評価についての項目を追加して、観点別評価についての意識づけを行うことができた。	17.0%	57.5%	25.5%	0.0%	2.9
			教務	実践目標 少人数クラス・習熟度別クラスなどの実効性のある指導方法を工夫する。	成果 習熟度別クラスの実施により、理解度に応じた授業を実施することができた。	27.1%	56.3%	14.6%	2.1%	3.1
		指導形態の工夫	3学年	実践目標 補習・小テスト・習熟度別クラス・個別指導などの実効性のある指導方法を工夫する。	成果 学習活動全般において、各自の能力・目標に応じた授業を実施することができた。	28.6%	61.2%	8.2%	2.0%	3.2
			2学年	実践目標 小テストや週末課題を通して家庭学習を習慣化させる。	成果 積極的に学習に取り組む生徒は増えているが、まだ充分とは言えないので継続した指導が必要である。	25.5%	61.7%	10.6%	2.1%	3.1
			1学年	実践目標 予習、復習そして家庭学習を習慣化するように取り組ませる。	成果 家庭学習が習慣化しているとは言いがたい生徒も多いので、引き続き取り組んでいく。	23.4%	48.9%	25.5%	2.1%	2.9
				総合	実践目標 担当者会議を通じて、学習内容・活動内容、指導方法について工夫していく。	成果 生徒の実態に応じた工夫を加え、充実した内容の実践を計画・実施することができた。	23.4%	66.0%	10.6%	0.0%
	総合的な学習の時間	教職員の協働体制の確立	総合	実践目標 スピーチ、レポート、学年全体での発表等を通じて、コミュニケーション能力の向上を図る。	成果 1、2年生ともスピーチに取り組み、言語活動を充実させることができた。学年全体での発表会の機会も生徒の成長につなげることができた。	42.6%	53.2%	4.3%	0.0%	3.4
		創意工夫を生かした実践の展開	総合	実践目標 西高祭・体育大会の一層の充実・発展させる。委員会活動を活発にする。	成果 生徒会がとても積極的に動き、細かいところではいろいろと失敗があったが、達成感を味わうことが出来た。	42.6%	48.9%	4.3%	4.3%	3.3
	特別活動	自主的・実践的な活動の活性化	生徒指導	実践目標 学校行事検討委員会を開き、海外修学(研修)旅行等の検討や行事内容の充実を図る。	成果 行事内容や実施時期について、学年や専門部と協議し、年間行事計画に基づきながら各月の行事を円滑に行うことができた。	25.5%	63.8%	8.5%	2.1%	3.1
		学校行事の精選と行事内容の充実	総務	実践目標 生徒の興味・関心の持てる図書を購入し、読書量を増加を図る。	成果 オリエンテーション、総合的な学習の時間等を通じて、貸出冊数を増加させることができた。	29.8%	51.1%	17.0%	2.1%	3.1
	芸術文化活動	読書活動の活性化	図書	実践目標 レベルの高い芸術鑑賞を行ない、生徒の芸術的な感性を高める。	成果 大蔵流狂言の鑑賞を行った。	21.3%	66.0%	10.6%	2.1%	3.1
教育活動全体における計画的な芸術文化活動の実施		図書	実践目標 救急法講習会を開き、生命と安全に対する、職員・生徒の意識と技術を高める。	成果 消防署の協力を得て、救急法講習会を実施できた。生徒向けの保健講習会においても、熱中症の予防知識、AEDの実習などを講習することができた。	36.2%	59.6%	2.1%	2.1%	3.3	
防災・安全教育	実践的な安全教育への取組	保健	実践目標 人権HRの具体的な内容について、各学年との連携を図り、3年間の授業内容を充実させていく。	成果 各学年と連携を図り、各学年生徒の理解度に応じた人権HRを実施することができた。	23.4%	63.8%	10.6%	2.1%	3.1	
人権教育	人権教育推進体制への取組	人権	実践目標 身近なもの、国際的なもの、また将来に関わる人権問題を扱い、生徒が主体的に問題に向き合える内容とする。	成果 人権HRの中で、各学年に応じた様々な課題を扱い、外部講師を招き、デートDVについての講演会を行った。	23.4%	70.2%	4.3%	2.1%	3.1	
	確かな人権意識の育成	人権	実践目標 MGHS、AFS、COLIBLIを軸に、国際交流プログラムを充実・発展させ、生徒の多文化理解を深めさせる。	成果 国際交流プログラムを継続し、生徒の多文化理解の機会を設けることができた。	42.6%	53.2%	2.1%	2.1%	3.4	
国際理解教育	留学事業の推進	国際	実践目標 国際理解に関する講演会、LAC講座等を通じて、生徒の国際理解を深めさせる。	成果 グローバル語り部講演会、LAC講座を通じて、生徒の国際理解を深めさせることができた。	38.3%	53.2%	6.4%	2.1%	3.3	
	国際的な視野の育成	国際	実践目標 英語教育における小中高の連携を図り、地域連携重点校としての役割を果たす。	成果 小中高の連携を継続し、地域重点校として相互理解を深める努力をした。	42.6%	44.7%	8.5%	4.3%	3.3	
	地域の英語教育への貢献	国際	実践目標 部活動を中心に近隣の高齢者介護施設と交流を行う。	成果 吹奏楽部と家庭科部でエデンの園を2回訪問し、入居者との交流を行なった。	48.9%	46.8%	2.1%	2.1%	3.4	
環境・福祉教育	高齢者介護施設との交流	国際	実践目標 インスパイアハイスクールを充実・発展させ、本校の特色を地域の方に知ってもらう。	成果 各部・学年・クラブ等の協力を得て、より魅力的な、生徒が主体的に参加できる発表会とし、地域にもアピールできるよう努力した。	42.6%	48.9%	6.4%	2.1%	3.3	
学校の特色化	学校の教育活動地域への広報	国際	実践目標 総合的な学習の時間の在り方も含め、特色ある学校設定科目、教科の設定を検討していく。	成果 2年文系に、ロジカルスキルアップを実施することができた。	29.8%	46.8%	21.3%	2.1%	3.0	
	特色科目の充実	教務	実践目標 総合的な学習の時間の在り方も含め、特色ある学校設定科目、教科の設定を検討していく。	成果 2年文系に、ロジカルスキルアップを実施することができた。	29.8%	46.8%	21.3%	2.1%	3.0	

平均 3.2